

State of the ART

腫瘍免疫微小環境とがん免疫療法の トランスレーショナルリサーチ

河口浩介

京都大学医学部附属病院乳腺外科助教

ポイント

- がん免疫療法により癌治療のパラダイムシフトがもたらされた。一方で効果が得られる集団は限定的であり、毒性ならびに医療経済の観点からもバイオマーカーの同定が急務である。
- 腫瘍浸潤免疫細胞が抗腫瘍活性を發揮するためには、1) Composition, 2) Localization, 3) Activationが重要な要素となる。
- がん免疫療法の効果には全身的な免疫因子が深く関与しており、統合的な解析が不可欠である。